



日本女医学会誌

公益社団法人日本女医会
復刊第210号
2012年4月25日発行
題字 吉岡彌生

巻頭言

未来への礎石

会長 津田喬子



公益社団法人に移行しました

会員の皆様にはお変わりなく、ご活躍のこととお慶び申し上げます。平素よりご協力、ご支援そしてご指導をいただきまして誠にありがとうございます。

季節は巡り、3月11日を再び迎えました。新聞、テレビによる大震災からの復興に懸命に立ち向かわれる被災地の皆様と、それを支える多くの善意と絆とを目の当たりにして、この国の復興を祈るばかりです。しかし、被災者の「時計の針は今も午後2時46分を指して時計は止まったままである」の気持ちに、その道のりの険しさを痛感致します。私たち日本女医会は今一度できることは何かを真摯に考え、広い視点から子どもや女性の健康支援、さらに震災への備えを推進したいと思います。

さて、皆様にご報告したいことがございます。本会は、2012年4月1日より社団法人から公益社団法人へ移行となりました。1969年に社団法人の認可を取得以来、皆様が積み重ねて来られた公益的事業の成果がしっかりとあったからこそ、今回の認可をいただけたと受け止めております。今回の移行に関してはいろいろとご心配をおかけ致しましたが、皆様の暖かいご支援を心より御礼申し上げます。

この日本女医会は創立以来、社会への貢献を目的に多くの事業を展開されてきました。しかしながら、会員の高齢化、新入会員の減少への対応が課題となっていました。公益社団法人認可取得への努力は、何にもまして日本女医会の存続と発展を願ってのことでした。これを受けて、これからの日本女医会の目標を考えてみました。新定款には、「この法人は、医学に関する調査研究、医療の普及及び女性医師相互の連携を図り、もって女性医師の社会的使命の遂行、公衆衛生の向上及び国民福祉の増進に寄与することを目的とする」と謳っています。医学・医療への貢

献は男性、女性を問わず医師として当然のことですが、それに加えて、本会設立時の理念でもある女性医師相互の連携と女性医師の社会的使命の遂行を推進することではないかと思えます。ボランティア精神で結ばれた連携は、本会でなくては、なし得ないことと思えます。

本会の目標を旗印として、新会員を積極的に勧誘し、公的活動資金や公益社団法人に与えられる活動税制上の優遇措置による寄付等の資金を拡充して、公益活動の一層の推進を行なってまいります。特に、次世代の医学・医療を担う人材を本会で支援し、育成しようとする機運が高まった結果、学生会員制度を制定しました。喜ばしいことに少しずつ学生会員が増加しているところです。

2011年3月11日の東日本大震災を経験した私達が何をなすかを問われる今、これまでの活動に、ポスト震災に対する女性医師の視点を加えての活動が大切と考えています。会員の皆様が、社会に一層貢献する公益社団法人日本女医会会員であることに、これまで以上の誇りと、活動への参加のお気持ちを持っていただけるように努力してまいります。

来る5月19日(土)、20日(日)には岐阜支部の皆様のご尽力により岐阜市において第57回定時総会が開催されます。公益社団法人としての初めての総会となります。多くの会員の皆様にご参加いただき、親睦、交流の場となりますことを期待しております。

今後ともご協力そしてご支援を賜りますようお願い申し上げます。



各部・各委員会より

庶務部

理事 山崎トヨ

今期の庶務部は、古賀副会長のもと小関、宮崎、宮本、山崎が担当した。

<第55回定時総会>

平成22年5月16日(日)本部担当で京王プラザホテルにて開催。平成21年度会務報告、事業報告、決算報告、平成22年度事業計画案及び予算案が承認された。また学生会員は、入会時のみ1,000円と決議された。役員改選につき会長以下3名の副会長、21名の理事、2名の監事、1名のナショナルコーディネーターが選出された。吉岡弥生賞は、医学に貢献した会員1名、社会に貢献した会員1名を選定した。第15回ブロック懇談会を平成23年2月27日(日)岐阜市のじゅうろくプラザにて、岐阜県医師会との交流会として28名の出席で開催。日本女医会をよく知っていただき、会員増強につながっている。

平成23年3月11日の東日本大震災を受け、3回の緊急役員会開催。

- ・3月12日(土)……メール会議
- ・3月13日(日)……日本女医会会議室にて討議、義援金寄附を決定し翌日、日本赤十字社を通じ送金。

当会の素早い対応と会員の熱い思いは被災地の人々に届いています。その後、会長が千葉、福島、宮城、岩手、青森、栃木の被災地を訪問し、義援金を各支部に直接お渡ししました。

- ・3月26日(土)……日本女医会会議室での討議で、第10回国際女医会西太平洋地域会議は大変残念で

したが中止することに決定、まぼろしの会となってしまいました。

<第56回定時総会>

平成23年5月29日(日)本部担当で京王プラザホテルにて開催。平成22年度会務報告、事業報告、決算報告、平成23年度事業計画案が承認された。日本女医会同好会規約を作成、4月理事会で承認、総会で報告。吉岡弥生賞は医学に貢献した会員1名、社会に貢献した会員1名を選定した。

定款変更の為、平成23年8月7日(日)に京王プラザホテルにて臨時総会を開催し、定款変更は可決された。

第16回ブロック懇談会を平成24年2月25日(土)、佐賀市の結婚式場：マリトピアにて54名の参加者で開催。女子医学生18名と女性医師の女性ばかりで、活気に満ちたなごやかな懇談会であった。

平成23年3月17日現在、会員数1597名です。しかし日本女医会は平成24年3月22日に内閣府より認定を受け、公益社団法人日本女医会として平成24年4月1日よりスタートしました。この事をバネに皆様と力を合わせて、より一層努力しなければならないと思います。

会計部

理事 濱田啓子

今期、塚田、大谷両理事と会計を担当させて頂きました。昨今の社会状況きびしい中、女医会会員の

日本女医会誌(第210号)もくじ

巻頭言	津田喬子 (1)
各部・各委員会より	(2)
庶務部/山崎トヨ、会計部/濱田啓子、学部/安部由美子、事業部/藤川真理子、渉外部/澤口彰子、広報部/対馬ルリ子、子育て支援委員会/対馬ルリ子・小関温子、女性医師支援委員会/澤口彰子	
佐賀 ブロック懇談会	(7)
山崎トヨ、小関温子、宮崎千恵、宮本治子	

市民公開講座	守内順子 (10)
蘭展で大賞を受賞しました!	大橋照美 (11)
厚生労働省より	
平成24年度第66回「児童福祉週間」のお知らせ	(12)
理事会議事録	(12)
東日本大震災 義援金のご報告 続報	(19)
第57回定時総会のお知らせ	(20)
会員動静	(20)
編集後記	(20)

御協力のもと、会費の納入率はお陰をもちまして維持されております。しかしながら会員数の伸び悩みにより本部自体の資金は目減りしております。

今年度は平成23年3月11日の大震災により日本での西太平洋国際会議が中止と相成りました。苦渋の決断ではありましたが、原発の諸事情及び、海外からの参加の取り消し増等により、完全中止はやむを得ない決定でありました。直前の中止でしたのでホテル代等のペナルティーは支払わなければなりません。がしかしこの様な非常時の中、東日本大震災義援金を募りましたところ大勢の会員より1,087万円もの多額の御寄付をお預かりし、非常に大きなメッセージを發したものと考えます。

これらは、津田会長、松井副会長、山本副会長、古賀副会長、各理事の御協力のもと女医会会員一同の並々ならぬご尽力のたまものと会計一同感謝いたしております。

それにつけましても、今後は公益社団法人として会計は更なる緻密さが要求されることと推察いたします。公益社団法人として認定後には寄付の優遇措置もありますので皆様の御協力により活動資金を獲得し、公益活動のますますの活発化をはかりたいと思っております。

社会に貢献する日本女医会をめざし、会員の皆様の活動基盤をしっかりと作りたいと考えております。会員皆様の一層の御協力をお願い致す次第です。

学術部

理事 安部由美子

学術部は学術担当副会長山本纈子先生のもと、前田佳子と安部由美子で担当した。

学術研究助成

平成22年度、平成23年度ともに、審査委員会による審査で受賞者を決定し理事会で承認を得た。平成22年度は市川順子先生と野呂瀬一美先生に、平成23年度は土屋恵先生、服部典子先生、細谷紀子先生に決定した。

学術研究助成受賞者の軌跡

(<http://jmwa.or.jp/kiseki/index.html>)

平成21年度に継続して、学術研究助成受賞者から御寄稿いただき、受賞者がどの様に活躍されているかをホームページ上に掲載した。平成22年～23年度にかけて新たに8名の受賞者の軌跡を掲載し、計31名となっている。これにより、学術研究助成に応募する

若手研究者の参考に資するとともに、学術研究助成を介した日本女医会の社会への貢献を広報した。

新しい治療とトピックス

(<http://jmwa.or.jp/topics/index.html>)

学術講演研修会に代わるホームページ上の研修ページとして、平成21年度に「新薬トピックス」として開始されたページを平成22年度も継続して運営した。平成23年度には薬物療法以外の治療法や医学・医療分野のトピックスについても掲載できるよう、ページタイトルを「新しい治療とトピックス」に改題して運営した。日本女医会内外の専門家に御執筆いただき、平成22年に3原稿、平成23年に3原稿を掲載した。日本女医会ホームページの中でもアクセス数の多いページの一つとなっている。

第10回国際女医会西太平洋地域会議

渉外部の川村富美子先生、諏訪美智子先生と、目黒支部の落合博子先生とともにプログラム編成委員会を構成し開催を準備した。また、抄録翻訳・評価等に参加する委員として Scientific Program Subcommittee Member を推薦し、会長より若手会員6名が委嘱された。東日本大震災と原子力発電所の事故により西太平洋地域会議は中止となったが、開催準備を通して女医会内外の若手医師に、国際女医会/日本女医会の学術活動を広報した。

事業部

理事 藤川真理子

事業部は、津田会長、山本副会長のもと吉馴、山田、高原と藤川の4名の理事で平成22年4月から担当しました。事業部で取り組んだ事業には、①荻野吟子賞、②学生会員制度の確立、③MsACT、④APEC2010WLN (Women's Leader Network) 会合、⑤提言論文、⑥被災地支援、⑦研究費、事業費の申請等があげられます。

荻野吟子賞は、平成22年度は授与2名、平成23年度は残念ながら応募なしでした。荻野吟子賞の周知は次期の課題です。②会員増は喫緊の課題ですが、『急がば回れ』と立ち上げた学生会員は、日本女医会に新たな活力を創り出しつつあります。③MsACT (Medical students & young doctors ACT) は、学生会員と研修医による活動を包括する名称で、国際女医会 young IMWA 日本支部の役割も担います。これまで10回に及ぶ女子医学生のための chatroom やバイリンガルの医師による英語セミナー開催。ミュン

スターでの国際女医会に女子医学生3名を参加させ、うち1名はawardに輝きました。次期は、MsACTの活動をさらに発展させてまいります。学生や若手医師からのニーズが高い事業として学会発表や留学にむけた英語セミナーがあり、来年の国際女医会に向けて8月頃の開催を企画中です。④平成22年9月に日本で開催される初めてのAPECのWLN（女性リーダーネットワーク会合）に松井副会長の要望を受け参加しました。本会の歴史と活動についての展示とエキスカッション（東京女子医大訪問と夕食）を担当しました。またアジアの女性リーダーとして橋本葉子元会長、平敷淳子国際女医会前会長、大森安恵東京女子医大名誉教授が選ばれていたことは日本女医会としても名誉なことでした。⑤日本女医会を学生や若手医師に周知するための方策として提言論文事業を立ち上げました。第一回目は『女性医師が輝いて働くための提言』を課題としました。学生1名、医師2名の入選者を岐阜での総会で表彰予定です。⑥東日本大震災被災地支援として会員からの義捐金を会長が被災地の支部に直接届けられました。また被災地の会員からのニーズを情報収集し片づけ用の古布送付や保育園へのピアノの贈呈につながりました。現地の女医会員の皆様との連携の下に日本女医会ならではの地道で息の長い支援を展開したいものと思います。⑦国等から研究費や事業費を提供される研究や事業にも応募していくことも今後の課題です。事業部としては公益社団法人化を受けての新たな事業を会員諸姉にご支援、ご協力をいただき展開していきたいものと思います。

渉外部

理事 澤口彰子

渉外部は松井副会長のもと、川村、諏訪、矢口、澤口が担当しました。

医師以外の専門職である女性団体の看護協会、法律家協会、大学婦人協会など10団体で構成されている国連NGO国内婦人委員会や、さらに各分野の39女性団体からなる国際婦人年連絡会議に参加し、日本女医会としての意見や報告を述べ、討論を行います。それらの結果を国政に反映させる目的をもって、総理大臣をはじめとして、各担当大臣や内閣府に具申する一端を担うのが渉外部の主な仕事です。

「会議に参加」とたやすく述べていますが、会議は一般的に月曜日と水曜日の10:00～12:00または

13:00～16:00に開催されるため、開業医もしくは勤務医である渉外部員が本会議に出席することは至難の業となります。何とかやりくりして出席しているのが現状です。

国連NGO国内婦人委員会加盟団体の一団体としては、国連総会政府代表団に女性の推薦など男女共同参画社会実現に向けての活動支援、日本アラブ女性交流事業の支援などを行ってききましたが、ここ2年間は高齢者問題、女性の地位向上、女子差別撤廃条約など人権問題についての審議が多くなっています。昨年度の国連総会政府代表団には、平敷敦子国際女医会前会長が推薦されています。

国際婦人年連絡会加盟団体の一団体としては、第56回国連婦人の地位向上委員会を相互扶助しています。医師の2/5を占める女性医師の育児や家事環境を整備し、国民の保健と福祉の向上を図る女性の地位向上相互扶助事業を行っています。

女性医師支援のためのシンポジウムの開催並びにその普及啓発事業と同時に女性医師のワークライフバランスや男女医学生の将来のワークライフバランス調査を行い、これらの結果を行政、大学側やメディアに周知を行いました。このキャリア形成支援と啓発も渉外部の仕事の一つです。シンポジウムの対象者は医師、医学生、医療関係者、その他一般の人で、一般公開しています。実施場所は、昨年度が交通の便のよいルークホールで行いました。本年度もルークホールで10月14日に行います。日本女医会ホームページや各メディアへの連絡、医科大学、大学医学部への連絡や周知を図ることも渉外部の仕事です。

医学生、研修医、若手医師、キャリア医師、連携する看護師、厚生労働省や文部科学省関係者から、それぞれの立場からの知見・意見を報告して頂き、医師としての職業を中断しないように環境、経済、教育、研究、就職などの様々な面からのサポートの普及啓発を行っています。

広報部

理事 対馬ルリ子

広報部は松井副会長のもと、対馬、秋葉、横須賀で分担して仕事をしました。

最も大きな仕事は、日本女医会誌の発行と、ホームページの更新・整備です。

年に4回発行される日本女医会誌の役割は、直接会員の皆様に、女医会の各種活動についてご報告す

るとともに、今後の日本女医会・国際女医会の方向性や、大きな行事の予定についてお知らせすることで。もちろん、お寄せいただいた各地方の会員の先生方からのお便り、学術奨励賞や吉岡弥生賞、荻野吟子賞など女性医師支援の募集、総会や理事会の議事録なども公開しており、常に、より多くの会員の皆様へ参加を呼びかけています。

また、ホームページは、月あたり千名前後の閲覧があり、一般のかたの女医会への関心も感じられる動向です。女医会のご紹介、行事のご案内のほか、新薬トピックスや健康相談室など、医師ばかりでなくさまざまな職種のかた、医療に関心をお持ちの一般のかたのニーズにもこたえられるよう、更新を心がけております。各地の女性医師の会の先生方からのシンポジウム・セミナー・懇談会のご案内などの情報も掲載してまいりますので、どうぞご遠慮なく事務局まで情報をお寄せください。

4月1日より新生「公益社団法人」として船出する日本女医会のすがたを、これからも積極的に発信してまいりたいと思います。

子育て支援委員会

●子育て支援委員会「ゆいネット」事業

対馬ルリ子

十代の性の健康問題について、地域で連携し支援するための公益事業「ゆいネット」は、2008年より3年間、札幌、盛岡、茨城、名古屋、岐阜、岡山で展開されました。これは、福祉医療機構の助成金をいただいてとりくんだ、組織や職業を超える地域連携の新しい試みでしたが、それぞれの地で、医療ばかりでなく行政や福祉、看護や教育、警察、地元NPOやボランティア、学生などをまきこみ、独自の活動として発展を続けています。

日本女医会の子育て支援の一環としてのこの活動は、「女性と子どもの健康を守る」という国際女医会の方針ともまったく一致しており、今後も当会の重要な活動のひとつとなっていく可能性があります。また、すでに各地で活躍している女性医師、女医会会員の存在感を再認識させる事業ともなっています。

今後は、新生日本女医会の公益事業のひとつとして、ひきつづき各組織、団体と連携しつつ取り組んで

allegra
OD錠
新発売

<p>アレルギー性疾患治療剤 処方せん医薬品(注意-医師等の処方せんにより使用すること)</p> <p>アレグラ錠 30mg/60mg フェキソフェナジン塩酸塩製剤 ●薬価基準収載</p> <p>★効能又は効果、用法及び用量、禁忌を含む使用上の注意等については、現品添付文書をご参照ください。 ★資料は当社医薬情報担当者にご請求ください。</p> <p>2011年6月作成 JP.FEX.11.05.14</p>	<p>アレルギー性疾患治療剤 処方せん医薬品(注意-医師等の処方せんにより使用すること)</p> <p>アレグラOD錠 60mg フェキソフェナジン塩酸塩製剤 ●薬価基準収載</p> <p>製造販売: サノフィ・アベンティス株式会社 〒163-1438 東京都新宿区西新宿三丁目20番2号</p>
---	--

sanofi aventis
Because health matters

いきたいと思います。6月には各地のこれまでのゆいネット活動と今後について、全国から代表者が集まり話し合う会を予定しています。参加ご希望のかたは、事務局までお問い合わせください。

●「どうしよう 子どもの救急」英訳

庶務担当理事 小関温子

2007年3月に「日本女医会 21世紀の子どものために小児救急医療の整備と提言事業・委員会」が『どうしよう 子どもの救急』を発刊しました。

この冊子は日本女医会の小児科専門医、保育園園長、看護師など総計10名が中心となって関係各位の協力のもとに作成したものです。

日本女医会は国際女医会、西太平洋会議等海外の女性医師との交流に世界の子供は皆同じとの観点から、ぜひ英訳をとの希望により早速取り掛かることになりました。

まず冊子の英訳に取り組んでいただいた友利杏奈先生の翻訳をもとに native English をお願いするためには日本人ではなく文法的に正しい英語、海外の一般の人に理解できる表現が大切と考えました。

アメリカ人で英語の先生 Mr. Andy Rhodes に依頼しましたところ、Internationalに通じるためにと熱心にさまざまな指摘を受けながら約3ヶ月の時間を要しました。

一方、この英訳を担当してくださった友利先生、まとめを担当してくださった大谷智子理事のご苦労は如何ばかりかとお察しいたします。大谷理事は原本の英訳、native の Andy 氏と通訳の3本立てを133のチェック項目を一覧表にしてくださいました。改めてこの133の項目を Andy 氏のチェックを受け、約4ヶ月の時間を要しようやく完成までに至りました。

私は途中から石原幸子委員長の推薦でこの小児救急の英訳委員の1人として参加させていただきました。

英訳という困難な事業にかかわり、会話ができるから英訳もという日本人的感覚は間違いであることを痛切に感じました。

2012年2月18日理事会の後、保育園園長小林ふみ子さんを除く約10名の関係者が全員集まり長時間にわたり大谷理事の解説を拝聴しながら熱心に検討したこと、全員が一致団結しての取り組んだこと、多くの方々の協力を得たことにより素晴らしい内容の英訳本が完成したと思っております。

2013年4月の韓国での国際女医会にこの英訳冊子

が役に立つことを願っています。

日本女医会の会員の先生方にも是非ご協力をお願いいたします。最後に委員一同の氏名を列記いたします（敬称略）。

出席者 石原幸子 伊藤けい子 大谷智子
鹿田儀子 神保直美 村田 郁
森川由紀子 山崎トヨ 山崎康子
小関温子

事務担当 小林留美

女性医師支援委員会

●女性医師支援委員会における「医学を志す女性のためのキャリア・シンポジウム」の活動

女性医師支援委員会委員長 澤口彰子

日本女医会ではこれまでも女性医師の調査研究や、働く女性のための育児環境整備支援、学会への託児所設置要求、専門医取得期間中の産休や育児休業の申し入れなどを行ってきたが、平成19年から「医学を志す女性のためのキャリア・デザインセミナー」を展開している。初年度は「ペーパードクターにならないで」、20年度は「キャリアもライフもピカピカに磨こう」、21年度及び22年度は「女性医師が働き続けられる環境の実現に向けて」と題して、医学を志す女性たちに医師の現状、各分野での取り組み、先輩たちの体験を聞くことなどの意義のある機会を提供した。

23年度は「各大学における女性医師支援の成果と問題点」と題して、午前は各大学医学部からの講演を頂き、午後は日本医師会、内閣府、メディアからのパネリストによって、「大学等の女性医師支援から医学界における男女共同参画社会へ」と題してパネルディスカッションを行った。

女性医師支援活動を先駆けて行ってきた東京女子医科大学の川上順子教授からは、「各大学における女性医師支援の成果と問題点」は各大学における女性医師支援の方向づけの有無によって異なり、極めて重要であるとの見解が出された。同大学では、保育、勤務体制、キャリア形成を支援しているが、問題点は指導する人材や経費であるとのことであった。東邦大学男女共同参画推進室中野弘一教授からは、女性医師支援室を開設したこと、その成果として、特に、女子学生に仕事と家庭の両立のモデルをみせることができたが、問題点は女性教員スタッフの養成が不十分とのことであった。三重大学の富本秀和教授

からは、三重県全体の女性医師支援状況と地域に根差した三重大学医学部女性医師支援策の報告があり、専門医を取得するためのトレーニングが時期的に出産・育児と重なっている問題点を指摘された。自治医科大学の桃井真理子教授は、女性医師支援センターの4つの柱である就業継続・育児・復職・地域医療従事医師の支援を述べられた。医育機関での女性医師支援のあり方として、男女の家庭内役割意識の撤廃、キャリア教育の充実、教育結果の社会還元意識の徹底をあげられた。今後の計画としては、女性医師支援センターからキャリア支援センターへの進化を予定していると言及された。パネルディスカッションでは、はじめに、日本医師会男女共同参画委員会小笠原真澄委員長から日本医師会における詳細な取り

組みの報告があった。内閣府福下雄二審議官からは男女共同参画局をつくられたこと、医学会における男女共同参画には女性医師の意志決定過程への参画の拡大と女性医師の就業継続が二つの輪として結びついていることをご自身のワークライフバランスや持論をまじえての報告を頂いた。読売テレビ放送株式会社岩田公男特別解説委員からは、読売テレビ等の女性アナウンサー等の出産・育児、勤務体制、キャリア形成過程が報告された。メディア界では、はじめての発表とのことであったが、女性医師支援に参考となる点や、また男女共同参画としての問題点もうかがわれた。今回のシンポジウムも前回と同じく、委員会で報告書として刊行し、各界に広く広報する予定である。

佐賀 ブロック懇談会

佐賀ブロック懇談会に寄せて

庶務部 山崎トヨ

羽田発、空路で小関理事と佐賀入りでしたが、空港で出迎えてくれたのは高熱のためいつもの笑顔も迫力もない川村理事。残念ながら彼女は東京へ戻りました。私達は、タクシーで「ホテルニューオータニ佐賀」へ。寛ぐ間もなく懇談会会場の「マリトピア」へ。当結婚式場での開催は、会場に劣らずゴージャスな内容で、集合写真でおわかりのようにまるで総会のようなものでした。学生さん18名（1年生1名、2年生2名、3年生3名、4年生11名、6年生1名）、研修医2名を含む44名の佐賀勢と本部から10名（会長、古賀・山本副会長、澤口・藤川・横須賀理事、庶務担当の小関・宮崎・宮本・山崎理事）の計54名もの参加者数は、今だかつてなかったことです。地元選出の横須賀理事、佐賀支部長木下先生始め、佐賀支部会員と佐賀県女医会の皆様の熱意と御尽力に深く感謝すると共に、佐賀支部の底力に脱

帽です。

今回の懇談会は3部構成でした。

まず始めに、津田会長より会の開催にあたり感謝の意が述べられ、念願かない公益法人が認可され4月1日より新しい公益社団法人日本女医会として出発が始まること、佐賀には立派なメンター、良いロールモデルが沢山いらっしゃるの、女性医師のキャリア・アップを期待します、と話された。木下支部長からは、女性医師が増えているが、日本女医会をベースに縦横の女性医師のつながりを強くして、女性医師が社会でしっかり働かなければならない等の話があった。

特別講演はパワーポイントを使ってわかりやすく、日本女医会を十分に理解していただけたと思います。



佐賀の3人の先生方は皆様、若手女性医師のホープです。それぞれの環境や立場で女性医師として頑張っていることに共感し、エネルギーをいただきました。共感し合って支え合えることは、女医会でこそできることと思います。

仙台が雪のため古賀副会長が間に合わず、閉会の辞を山崎がして一部の講演会終了。

第2部は今回の目玉でした。乾杯のご発声をおつて萩野吟子賞を受賞された緒方文江先生にお願いしました。歯切れのよい力強いお声はとて80歳を越えた方とは思えず、自分が思わず背筋を伸ばしてしまうような偉大なメンターでいらっしゃいます。

現役と未来の女性医師の肩と肩が触れ合いながら、38人にマイクがつながりました。盛り上がったところへ古賀副会長が颯爽と到着、自己紹介。進路に迷っている人、一度にたくさんの個性的なロールモデルやメンターに出会って戸惑ったり、感激したり。子どものような、孫のような医者のお卵にふっと昔の自分をダブらせては我に返ったり。あっという間に差し入れのクッキーもおまんじゅうもなくなりました。いずれにしても、総会では経験できない心が触れ合えた貴重な時間でした。

第3部の会食は、学生2名、福岡からの医師2名を含めた佐賀勢20名と、本部から10名の計30名でした。大変おいしい中華ディナーは、佐賀独特のめずらしいメニューでした。津田会長の挨拶の後、諸井先生の乾杯から始まる自己紹介と各テーブルで会話がはずみ、時間の経つのを忘れるほどでした。諸井先生や緒方先生、その他の諸先輩が62年以上も守り続けてこられた重みと、佐賀のエネルギーを肌で感じながら、何故か昔の日本女医会の原点にも触れたような気がしました。この佐賀のエネルギーを全国に広めて新しい日本女医会の発展につながることを期待します。

さて翌日は、2班に分かれて観光を楽しみました。津田会長と藤川理事は横須賀理事と有田へ。九州陶磁文化会館で学術ボランティアの説明を聞き、有田焼をじっくり理解し、柿右衛門窯、賞美堂を巡り十二分に有田と有田焼を堪能されたそうです。古賀・山本副会長、澤口・小関・山崎組は、木下支部長のご案内で佐賀市内を大型車で走り回りました。木下支部長と横須賀理事の病院も車の中から拝見できました。創業150年の徳永飴の本家で飴を買い、吉野ヶ里遺跡は久しぶりに現実離れた空間で不思議と心が癒されました。ボランティアの方にも心洗われました。佐賀城下ひなまつりを見学、佐賀錦のブローチや

絵葉書を求めて昼食は、超豪華なお寿司と佐賀牛を御馳走になり大満足の上空港まで送って頂き機上の人となりました。

佐賀支部会員と佐賀県女医会の皆様、誠にありがとうございました。

.....

庶務部 小関温子

ブロック懇談会は久しぶりです。

佐賀支部での懇談会には会長はじめ、副会長2名、理事7名の参加でした。

私は佐賀を初めて訪れることから佐賀の歴史、佐賀錦、有田焼、佐賀牛、烏賊等の期待を胸に、佐賀空港直行便に搭乗、山崎、藤川、小関が同じ便に乗り合わせました。

山崎理事が記載してのとおり、佐賀支部の先生方、佐賀大学医学部医学科の学生さんが18名も参加して頂き、若々しい雰囲気は何とも女性医師の未来に光が差し込んだように明るく華やいものでした。特に、学生会員に力を注いでいる担当の藤川理事には、心の支えになったのではと思いました。

佐賀大学医学科の学生会員第1号の森永智子さんは「私たちが日本女医会の未来を支えたい」と言ってくださったことに佐賀そして日本女医会の参加した女性医師のほとんどが拍手大喝采でした。医学科4年生が多く参加していただきましたがその1人にハワイの大学に約2ヶ月留学が決まっている草壁香那さんはすでに名刺も作りしっかりした学生さんでした。翌日メールをいただきましたので、掲載させて頂きます。津田会長の日本女医会の歴史、山本副会長の女医会の事業を拝聴したことが影響したと感じました。

「大変為になるお話をありがとうございました。恥ずかしながら、私はあまり日本女医会の歴史について知らなかったため、今回の懇談会で日本女医会の歴史についても学ぶことができとても興味深かったです。今年の4月から実習も始まりますので、本気で自分がどのような医師になりたいかを考えるきっかけにもなりました。佐賀、日本女医会の発展のみならず、世界女医会がより良く、結束した組織になれます様に女医になる身として、学生のうちから勉学に励みたいと思います。今後再びお会いできる日を心より楽しみにしております。」

純粋で女医となる決意が伝わり、私の心に強く残るメールをいただき嬉しく感激致しました。

庶務部 宮崎千恵

私の出身校は久留米大学で、当時のクラスメートが現在佐賀市医師会長をしており、彼と日本女医会評議員の木下晴美先生とは高校のクラスメートということで参加させていただきました。昭和48年に東京女子医大から久留米大学の産婦人科に入局された会員の河田史子先生と井手信先生が山崎トヨ先生と仲の良い同級生とお聞きし、佐賀のブロック懇談会にゲスト参加を呼びかけ、久しぶりに山崎先生を囲んでの昔話に花が咲きました。懇談会の後の茶話会で、佐賀医大の多くの学生さんと親しく交流しましたが、その中に研修医の吉原麻里さんという方が参加されておりました。夕食会を早く抜け出して参加した私のミニクラス会で、その方が、地元の開業医で後輩の吉原先生の娘さんであることが分かり、後に麻里さんとも合流して楽しく歓談し、是非岐阜の総会にも来て下さるようにお誘いしました。翌日の佐賀市内見物は鍋島のおひな様が魅力的でしたが、恩師の病氣見舞いのため、久留米で女性クラスメートと待ち合わせて

いましたので、津田会長、横須賀先生と共にホテルの玄関で山本副会長ほかの観光組のバスを見送りました。その後、久留米でクラスメートと会い、「是非日本女医会に入会して岐阜に来て下さい」と頼みましたところ、彼女の娘さん、従妹さんにも入会してもらえました。短い時間でしたが、今回の佐賀ブロック懇談会は、私にとっても有意義な一時でした。

庶務担当理事 宮本治子

今年度のブロック懇談会は佐賀で開催されました。日本女医会佐賀支部、佐賀県女医会、女性医学生（研修医）とたくさんの皆様に参加いただきました。

日本女医会からは、歴史と事業についての報告をさせていただき、佐賀からは3人の先生方から女性医師として誇りを持って生きている姿と御活躍についての力強い報告をしていただきました。たいへん実のある立派な懇談会を開催できた事を深く感謝し、心から御礼申し上げます。ありがとうございました。

平成24年4月1日からは、公益社団法人日本女医

会として出発いたします。今後も日本女医会の会員がますます増えますこと、そして日本女医会の基本理念が日本国中の女性医師の心の中に広がっていくことを願っております。

私事ですが、吉岡弥生先生のご主人の出身地であることを知り、初めて訪れた佐賀の地が急に身近なものとして親しみを覚えました。そして佐賀城にて「葉隠」の書を一冊、“ひいな祭り”の会場で明治天皇から鍋島家へ賜ったお雛様の美しい絵葉書を手に帰路につきました。



社団法人日本女医会 第16回ブロック懇談会

日時 平成24年2月25日(日)
会場 マリトピア

プログラム

- I 講演会 司会：(社)日本女医会理事 小関温子
1. 開会
 2. 挨拶 (社)日本女医会会長 津田喬子
(社)日本女医会佐賀支部長 木下晴美
 3. 特別講演
 - 1) 日本女医会の歴史と活動 (社)日本女医会会長 津田喬子
 - 2) 日本女医会事業紹介 (社)日本女医会副会長 山本纈子
 4. 佐賀県における女性医師の奮闘と活動
 - 1) 循環器内科(臨床系)医師としての奮闘 小松愛子
 - 2) 社会医学(基礎系)医師としての奮闘 原めぐみ
 - 3) 日本女医会との関わりのなかで 浅見豊子

質疑応答

5. 閉会の辞 (社)日本女医会副会長 古賀詔子
- II ティーパーティ 司会：(社)日本女医会理事 横須賀麗子
緒方文江
1. 乾杯
 2. 懇談
 3. 閉会の辞 (社)日本女医会理事 山崎トヨ
- III 会食

市民公開講座

これからのキャリアを語る医師と学生の会 『憧れから実現へ～医師のロールモデルから学ぼう』報告書

北海道支部 守内順子

女性医師が増加している今、医学生から将来に対する疑問・不安・悩みを打ち明ける場が少なく、将来どのように働くかイメージしにくい！という声を聞き、平成19年から札幌医科大学（札幌医大）では「女性医師と学生のおしゃべりフォーラム」として5回、北海道大学（北大）では「女性医師の今」として3回、医学生と医師との懇談会を開催して参りました。これらの会は、医師の働く環境や家庭生活との両立、仕事を続けるモチベーションの持続などに関して、男女を問わず医師と学生が忌憚りの無い意見を述べ合う場となっております。

今回は『憧れから実現へ～医師のロールモデルから学ぼう』と題し、初めて二大学合同の会を開催致しました。特別講演には、昨年まで北大第一内科の准教授、当会の理事として活躍いただき、昨年4月から慶應義塾大学呼吸器内科教授として赴任された別所智子先生をお迎えしました。多くの学生や医師、社会人の参加があり、非常に充実した熱気のある会になり、大成功でした。

会は、主催者側の挨拶から始まりました。

北海道女性医師の会の澤田香織会長、札幌医大キャリアフォーラム実行委員会代表の札幌医大・医学部4年の半田和香子さん、そして北大キャリアシンポジウム実行委員会代表の北大・医学部2年の柴田美音さん、いずれの方も参加者に向け、今回の会を主催するに当たっての主旨を述べられました。

引き続き、今回の会の担当理事の永石観和先生（札幌医大、解剖学第2講座）、長井桂先生（北大、第1内科）の司会で、札幌医大の臨床研修センターの赤坂先生、北大女性医師就労支援事業事務局から清水先生、それぞれのお立場より御講演がありました。

大学に所属する意義、医師としての人生にはひたすら頑張る時期がある事、仕事は中断しない方がよい事を含めて、産休育休の期間の問題、組織との繋がり的重要性、支援システムとしての情報に関する問題などのお話がありました。次に、4ヶ月のお子さんを連れて釧路から御参加下さった、脳神経外科の後期研修医の菅野先生が、ご自分の研修、そして妊

娠・出産に関するお話を披露くださいました。

この3人の先生を囲んでのパネルディスカッションでは、学生さん達や多くの医師からの質問やコメントがあり、特に70歳代の女性医師の方々の話に、学生さんや若手の医師の方々が感心・感動されていたのが印象的でした。

後半は、澤田香織会長のご紹介のあと、別所智子先生が『医師として仕事をし続けるために』というタイトルで講演されました。医師としてのキャリアを積むに当たって、数度の分岐点でどのように進路を選択されたか、2人のお子さんや2度の留学に関しても、プライベートな生活も含めてお話し下さいました。学生さん達には、別所先生がとても身近に感じられたようです。まさに今回の会のタイトルのように『憧れから実現へ～医師のロールモデルから学ぼう』だった！と思います。

最後に先生から以下の4つのメッセージでお話しが締めくくられました。

- ① Priority（比重）を意識する
- ② 時間実を意識する～人生は長い～
- ③ 英語が出来る advantage は大きい
- ④ 良き相談相手（メンター）は生涯の宝

講演のあとにも質問が相次ぎ、予定時間を過ぎて会は終了しました。

会場の近くでの別所先生を囲んでの懇談会には30名（うち学生さんが18名）が出席、賑やかで和やかな会になりました。最後まで別所先生が学生さん達に取り囲まれ質問されていましたが、終始にこやかに答えておいでになる姿が印象的でした。



蘭展で 大賞を受賞 しました!

愛知県支部 **大橋照美**

この2月上旬、知多蘭友会の第48回蘭展に出品、「大賞」を頂きました。知多半島内外のアマ・プロの蘭栽培家の集まりで、十数年ぶりの一等賞でした。

この花は東南アジアの原種 *Eria.brachystachya* という大株です。新しい偽鱗茎（バルブ）4本の各葉の付け根に、計25本の花穂を付けました。赤い唇弁を囲んだ白い花卉の5ミリほどの可愛い小花、それがビッシリ集まって花穂を形成しています。花命は短いけれど、ホッとする和みを感じさせてくれる花です。今年の寒さで花期が遅れたのが幸いし、思いがけない賞が転がり込んだ訳です。



高カロリー輸液用 糖・電解質・アミノ酸・総合ビタミン・微量元素液



処方せん医薬品* 薬価基準収載

エルネオパ® 1号輸液

*注意—医師等の処方せんにより使用すること

処方せん医薬品* 薬価基準収載

エルネオパ® 2号輸液

*注意—医師等の処方せんにより使用すること

ELNEOPA® No.1 Injection
ELNEOPA® No.2 Injection

◇効能・効果、用法・用量、警告・禁忌を含む使用上の注意等は、製品添付文書をご参照ください。



販売提携 **大塚製薬株式会社** 東京都千代田区神田司町2-9
製造販売元 **株式会社大塚製薬工場** 徳島県鳴門市撫養町立岩字芥原115

資料請求先
株式会社大塚製薬工場 輸液DIセンター
〒101-0048 東京都千代田区神田司町2-2

〈11.04作成〉

厚生労働省より

平成24年度第66回「児童福祉週間」のお知らせ

厚生労働省では、子どもや家庭、子どもの健やかな成長について国民全体で考える事を目的に、毎年5月5日より一週間を「児童福祉週間」と定めて、児童福祉の理念の普及・啓発の為に各種事業及び行事を行っています。今年度も引き続き各種事情及び行事を展開することにより児童福祉の理念の一層の周知と子どもを取り巻く諸問題に対する社会的関心の喚起を図るものです。

平成24年度「児童福祉週間」の概要

- 1・主唱 厚生労働省、(社福)全国社会福祉協議会、(財)こども未来財団
- 2・期間 平成24年5月5日(土)より5月11日(金)までの一週間
- 3・標語 『ニコニコは「なかよくしよう」のあいずだよ』
(全国公募より選定された作品)
- 4・主な取組
 - (1) 児童福祉の理念の普及
 - (2) 家庭における親子のふれあい促進
 - (3) 地域における児童健全育成活動の促進
 - (4) 児童虐待への適切な対応
 - (5) 母と子の健康づくりの推進
 - (6) 多様化する保育需要等への対応
 - (7) 障害のある子ども等に対する理解の促進



((理事会議事録))

日時：平成23年11月19日(土)
午後3時

場所：(社)日本女医会会議室

出席者：津田、古賀、松井、山本、秋葉、大谷、小関、川村、澤口、諏訪、塚田、対馬、藤川、前田、宮崎、宮本、矢口、山崎、山田、横須賀、森川、中井 (22名)

欠席者：安部、高原、濱田、吉馴 (4名)

・開会に先立ち、津田会長より11月2日に電子申請で公益社団法人の申請が完了した旨の報告があった。

継続審議事項

1. 第57回社団法人日本女医会定

時総会(岐阜)について

(宮崎理事)

清島真理子先生への講演依頼状は、各理事からの訂正の文言を盛り込んだものを宮崎理事から一斉メールで各理事に送る。

・今後は、ひな型を事務局で保管する。

・プログラムについて

発行部数は500部。広告掲載料は資料1の通りとする。

・開催スケジュールについて

5/19(土)

評議員会 3:00~4:30

懇親会 4:30~(形式は、着席式のビュッフェスタイル)

5/20(日)

定時総会 10:00~12:00

昼食について 12:00~13:00

・1社協賛のランチョン形式とするか、オープンにして交流会の要素を持たせるか(公益社団認定後

の場合は公認会計士に相談することも含め12月、1月の理事会で論議することとする)

2. 雑誌「いきいき」の記事への執筆とHPへの記事掲載について

(横須賀理事)

・今後は執筆を続けることとする。

・事業部、山本副会長が担当する。

3. 東日本大震災被災地への継続的支援について

(津田会長)

・女医会HPに災害地協働センターの「がんばるぞうタオル」のリンクを張り、紹介をする。 <承認>
・被災地の医療機関へ無線機(1機40万円程度)の寄贈を検討。次回理事会で業者に説明を受ける。 <承認>

4. 日本女医会入会のご案内に学生向け文言を加える件について

(藤川理事)

・配布資料を持ち帰り次回理事会
で決定することとする。

5. ブロック懇談会(佐賀)について
(宮本理事/横須賀理事)
- ・日程は2/25。時間については、
調整中。
 - ・庶務部が、支部長宛での正式な
会長名の依頼状を作成する。
 - ・12月理事会でプログラムなどの
詳細を報告する。

審議事項

1. 公益法人申請後に必要な対応と、
今後の日本女医会、理事会のあり
方について (津田会長)
- ・津田会長から、資料に基づき、
事業、予算、会員の募集等につい
て今後予想される対応について
説明があった。
2. 「若者の性の問題に対するより効果
的な連携に向けて～女性への性暴
力を防ぐ～」(11/13 愛知)
のプログラムの印刷費
(松井副会長) <承認>
3. 第1回提言論文募集のチラシデ
ザインについて <承認>
- ・印刷費は事業部の予算から支出
する。
4. 北海道支部からの市民公開講座
「憧れから実現へ～医師のロール
モデルから学ぼう」への助成申
請について <承認>
5. 会員管理用ソフト「File Maker」
の購入 <承認>
6. 忘年会(12/18)のメニューにつ
いて (小関理事)
- ・西洋料理とする。

報告事項

<庶務部報告>

1. 11月理事会を日本女医会会議室
にて開催。(10/18) (宮本理事)
2. 軽井沢セミナーの報告。
(小関理事/山崎理事)

<会計部報告>

- 1) 10月分会計報告 (塚田理事)

<事業部報告>

- 2) 東京女子医科大学文化祭のポ

スター展示について報告。

(藤川理事)

- 3) 12/23に、「Chat room」改め、
「MSact 学生会員ミーティング」
を日本女医会会議室で行う。そ
の際に会費を徴収する。

<渉外部報告>

- 1) 国際婦人年連絡会の依頼により
矢口理事が原稿執筆を行った。

<広報部報告>

- 1) 日本女医会誌 208号を10/25
に発行。209号は、1/25に発
行の予定。 (対馬理事)
- 2) 9月のホームページのアクセス数
について報告があった。また、
各部に対しホームページに掲載
できる情報などを、事務局宛て
に寄せてもらえるよう依頼があ
った。北海道の市民公開講座、
軽井沢セミナーなども対象とす
る。

<委員会報告>

- 1) 女性医師支援委員会 (澤口理事)
- ・H24年度のシンポジウムは、持
田製薬のルークホールとし、10
月第2、または第3土曜日が候
補となっている。
- 2) 子育て支援委員会 (対馬理事)
- ・H24については5月、6月を目途
に報告会を開催する予定。

<NC報告> (矢口理事)

西太平洋地域のビジネスミーテ
ィングを開催する予定ではあるが、日時
は未定。

- 1) 国際女医会は、日本における女医
会学生会員の情報があれば、直
接本人に連絡を取りたいとの意向
がある。

<その他>

- 1) 若者の性の問題に対するより効果
的な連携に向けて～女性への性暴
力を防ぐ～」(11/13 ウィンクあ
いち主催：内閣府、男女共同参画
推進連携会議、日本女医会、愛知・
思春期研究会)に参加。

(津田会長)

- 2) 東京都支部連合会総会に出席
- 3) 「周産期医療に関わる専門的スタ

ッフの養成」事業における推進委
員として、対馬理事を推薦。

(津田会長)

12/8に第1回の会合が行われる。

(対馬理事)

- 4) 理事会における理事の出席につ
いて (山崎理事)
- ・理事会20分前に部会、理事会
終了後に部長会をもつというこ
とがあまり実践されていない旨
報告があった。
- ・今期理事会(平成22年6月～
23年10月)における各役員の
出席・欠席について
無欠席者2名 6日欠席6名
- 5) ホームページへの質問箱の設置に
ついて
- ・形態、セキュリティなどについて
今後の検討事項とする。
- 6) 会議室の貸し出しについて
- ・次回の検討事項とする。

日時：平成23年12月18日(日)

午後2時

場所：京王プラザホテル42階
高尾

出席者：津田、古賀、松井、山本、
秋葉、安部、大谷、
小関、川村、澤口、
諏訪、高原、塚田、濱田、
藤川、前田、宮本、
山崎、山田、横須賀、
吉馴、森川、中井(23名)
欠席者：対馬、宮崎、矢口(3名)

・開会に先立ち、津田会長が2011年
の総括と、新年に向けての抱負を
述べた。

・11月理事会議事録を承認。

継続審議事項

1. 公益認定等委員会事務局でのヒア
リングの報告
(松井副会長・羽田氏)
- 1) 羽田氏より、資料に基づき申請
の修正点と対応策の報告があっ
た。
- 2) また、羽田氏より公益認定後の

問題提起があった。

- ・総会の経理処理、予算の計上を一本化する必要がある。
- ・理事会会議費と評議員会出席者への交通費の扱いを明確にする必要がある。
- ・引当金の扱いについて、あらかじめ予算立てを行う。
- ・公益認定の閲覧のために、名簿データを出力しておく。

2. 社団法人日本女医会第16回ブロック懇談会について

(宮本理事・横須賀理事)

- 1) 日程2/25(土)午後5時、予算10万円に決定。
- 2) 各理事の出欠、宿泊予定を取った。
3. 第57回社団法人日本女医会定時総会(岐阜)について

(小関理事)

庶務部内で再度スケジュールを組み、ランチョンセミナーの実施有無、講演形式を含め、次回の理事

会の審議事項とする。

4. 東日本大震災被災地への継続的支援について (津田会長)
被災地の医療機関への寄贈を検討中の無線機の説明が、理事会後に行われる通達があった。
5. 日本女医会入会のご案内に学生向け文言を加える件について (藤川理事)
次回理事会にたたき台を提出し、審議事項とする。

審議事項

1. 日本女医会地域医療奉仕活動に対する助成について (吉駒理事)
申請書に薬品メーカーの名称記載が指摘されたため、一旦申請者(清水聖保先生・大阪第1支部)に戻し、指摘部分を検討の上、再申請して頂き次回理事会で諮ることとする。

報告事項

<庶務部報告>

11月理事会を日本女医会会議室にて開催。(11/19) (山崎理事)

<会計部報告>

会計部報告に先立ち、津田会長より長嶋会計事務所との契約は23年度中まで留保する、長岡先生は公益法人申請、及び認可後の経理にのみ関わるとの通達があった。

11月分会計報告 (大谷理事)

<事業部報告>

(藤川理事)

- 1) 第1回提言論文募集ポスターを全国医科大学に5部、および研修医病院へ3部ずつ送付 (藤川理事)
- 2) MsACT学生ミーティングを12/24午後日本女医会会議室で開催予定

<渉外部報告> (澤口理事)
国際婦人年連絡会世話人が野田内閣総理大臣に提出した書類「高校生および学生向け給付型奨学金制度



選択的DPP-4阻害剤 [2型糖尿病治療剤]
処方せん医薬品[※] 薬価標準収載

ネシーナ錠 25mg / 12.5mg / 5.25mg
(アログリプチン安息香酸塩水和物)

インスリン抵抗性改善剤 [2型糖尿病治療剤]
処方せん医薬品[※] 薬価標準収載

アクトス錠 15・30 OD錠 15・30
(日本薬局方 ビオグリタゾン塩酸塩/ビオグリタゾン塩酸塩口腔内崩壊錠)

選択的DPP-4阻害剤/チアラリジン系薬配合剤 [2型糖尿病治療剤]
処方せん医薬品[※] 薬価標準収載 **新発売**

リオベル配合錠
(アログリプチン安息香酸塩/チアラリジン塩酸塩配合剤)

チアラリジン系薬/ビッグuanid系薬配合剤 [2型糖尿病治療剤]
処方せん医薬品[※] 薬価標準収載

メタクト配合錠
(チアラリジン塩酸塩/メトホルミン塩酸塩配合剤)

チアラリジン系薬/スルホニルウレア系薬配合剤 [2型糖尿病治療剤]
処方せん医薬品[※] 薬価標準収載

ソニアス配合錠
(チアラリジン塩酸塩/グリメヒリド配合剤)

食後血糖改善剤
処方せん医薬品[※] 薬価標準収載

ベイスン錠 0.2・0.3 OD錠 0.2・0.3
(日本薬局方 ポグリボース錠、ポグリボース口腔内崩壊錠)

速効型インスリン分泌促進薬
処方せん医薬品[※] 薬価標準収載

グルファスト錠 5mg・10mg
(ミチグリニドカルシウム水和物)

注)注意一医師等の処方せんにより使用すること
効能・効果、用法・用量、警告、禁忌を含む使用上の注意等は、添付文書をご参照ください。

の実現を要望します(案)」について、内容を承認。

<広報部報告>

- 1) 日本女医会誌 209号(1/25発行予定)の概要説明(秋葉理事)
- 2) 今後の会誌広告の依頼、公益法人化後の執筆者を会員外から募る旨の説明、執筆者推薦の依頼(秋葉理事)
- 3) 9月のホームページのアクセス数と更新情報についての報告(横須賀理事)

- 4) ホームページ内の変更を必要とする情報については、今後の審議事項とする。

<学術部報告> (安部理事)

ホームページ「新しい治療とトピックス」の論文

- ・「新しい糖尿病治療の夜明け—インクレチン関連薬の登場—」(三浦順之助先生)
- ・「ロタウイルスワクチン(ロタリックス・ロタテック)について」(大谷智子理事)を、編集中。

今後の論文は、緊急避妊薬についてを対馬理事に、ドイツにおける放射線の防護策についてを山本副会長に依頼済。

<委員会報告> (澤口理事)

1) 女性医師支援委員会

- ・H24年度のシンポジウムは、10月第2日曜日にルークホール(四谷)で行う予定。前田理事に会場の確保を依頼した。
- ・内容は「男性の意識改革はどこまでできたか」(案)

2) 子育て支援委員会(山崎理事)

- ・H24.12/18理事会前に京王プラザホテルで小児救急委員会を開催。
- ・「どうしよう子どもの救急」英語版(販売予定価格400円、日本語版とセットの場合は500円)をH24年春に発売予定。

<NC報告> (安部理事)

12/17西太平洋地域のビジネスミーティングが開催された。次回理事会で矢口理事が詳細を報告する予定。

<その他>

栃木支部報告 11/27「栃木支部総会」を開催。(山崎理事)

・本部から頂いた義捐金50万円の使途につき協議。

・24年に荻野吟子先生ゆかりの地を巡る旅行を行うことを決定した。

すべての審議と報告が終了した後、奥田電気工業株式会社代表取締役奥田博昭氏による、無線機の説明、および実演があった。

日時:平成24年1月21日(日)

午後3時

場所:社団法人日本女医会会議室

出席者:津田、古賀、松井、秋葉、安部、大谷、小関、川村、澤口、諏訪、高原、塚田、対馬、濱田、藤川、前田、宮崎、矢口、山崎、山田、横須賀、中井(22名)

欠席者:山本、宮本、吉馴、森川(4名)

・開会に先立ち、津田会長から年頭の挨拶と長岡公認会計士の紹介があった。

・日本女医会のバッジを配布

・12月理事会議事録を承認

継続審議事項

1. 公益法人化に伴う変更点、および予算案について(長岡公認会計士・羽田氏)

長岡公認会計士を交えて以下の質疑応答があった。(以下敬称略)

1) 総会費について

宮崎:総会費として参加者一人あたり3,000円を集めることは問題ないか。

長岡:会費として3,000円を集めることは問題ないが、総会と懇談会の会計は完全に分け費用の明細や収支は明確にしておく必要がある。

総会は日本女医会の意思決定機関であり、承認業務以外の

イベント的なものは懇親会の位置づけとなる。従って、総会は日本女医会主催、懇親会は任意団体である支部が主催のものとし、経理も完全に分離させ、収支をつけなくてはならない。

2) 講演会について

古賀:講演会の位置づけはどうか。

長岡:講演会を本部が主催するというのであれば、総会と同時に開催の事業をするという形になる。開催自体は本部主催、支部主催どちらでもかまわない。ただし会場、日程が同じであっても、経費を分ける必要がある。

羽田:講演会が会員限定ということになると、公益事業にあたらなくなるがあるので注意が必要である。

宮崎:それについては、日本女医会の会員以外の医学生、研修医や医師も参加できる公開講座というかたちをとる予定である。

本件については、津田会長から予算のプランを立てて、決済を本部、支部どちらで行うかを明確にし、最終確認を取るよう通達があった。

3) 領収書について

宮崎:総会の経費として150万円必要ということであれば、日本女医会宛ての150万円分の領収書が必要であり、懇親会は岐阜支部宛ての領収書があればよいということではよろしいか。

長岡:懇親会は支部主催ということになるので、総会とは必ず宛先をわけておかなければならない。

松井:本部から支部に資金を送る場合は、どのようにしたらよいか。

長岡:その場合は、支部が本部に請求書を発行し、本部が支部に振り込みをすることになる。

津田:最初にすべてのお金を支部

にお渡しするのではなく、使った分の金額をその都度送るということでよいですね。

長岡：その通りです。

4) 広告収入について

宮崎：広告収入については、スポンサー側が以前のように岐阜支部宛に直接広告費を入れることができなくなっているため、日本女医会宛に広告費を振り込んでもらうようにする。広告主のリストは後程事務に渡す。

松井：広告はどのように理解したらよろしいか。

長岡：あくまでも入ってきたお金は日本女医会の収入とし、岐阜支部から上がってくる請求とは関係なく考える。

5) ブロック懇談会について

松井：ブロック懇談会について、懇談会の費用10万円についてはどうか。

長岡：ブロック懇談会は本部主催で行うものだが、佐賀での収支報告書をきちんと提出してもらう必要がある。請求は佐賀支部宛でもかまわないし、業者から本部宛てに直接請求してもらってもかまわない。

予算については、今後は本部から支払う金額の上限を明確にした規約を作ったほうがよい。そのため、本部と支部の関係を明文化し、その関係の中から、ブロック懇談会を行う意図、目的を明確にし、その目的を達成するために払うものとして金額を設定しておけば、立ち入り検査などがあつた際にも対応ができる。

小関：ブロック懇談会に参加するための理事への交通費はどうか。

長岡：交通費に関しては、日本女医会が法人としてどう決めるかという問題である。支払うということであれば実費相当額が上限となる。

羽田：昨年度の申請時に、理事

会、総会、または会長が認めた場合は実費相当分を支払いという規定を作っている。

松井：では、それはまた後程決めるということか。

6) 会計報告について

松井：毎月の会計報告は今の形式でよいか。

長岡：この資料は、あくまでも内部の管理資料なので見やすいかたちであればそれでかまわない。

津田：来年度からは、収支は事業ごとに出す形式にするというのはどうか。

長岡：できれば、予算と実績値が比較できるかたちでの収支報告がよい。

7) 協賛金について

松井：他の団体や学会への協賛金については、どう処理したらよいか。

長岡：選考の基準が公益性に準じており、説明が可能であれば特定の団体への協賛金の支払いは問題ないので、予算の中で金額を設定し、その都度理事会で審議をすればよい。

8) 小児救急の売り上げについて

津田：小児救急の売り上げの扱いはどうしたらよいか？

長岡：売上金は小児救急委員会からの寄付ということではなく、本部の売り上げとして計上しなくてはならない。

津田：それでは、その方法を委員会内で決定して下さい。

9) 予算と事業内容について

長岡：予算は公益法人に移行した場合、事業年度開始前に内閣府に提出しなければならないということが法律で定められている。来年度からは法に従って作業を行わなくてはならない。

つまり、予算の承認をその前に行っていなければならない、予算の作成は1月、2月中ということになる。

羽田：同様に事業計画も事業年度開始前に申請しなくてはならず、3か月以内に決算を出さなくてはならない。

前田：年度予算、事業計画については、毎年5月の総会で最終的に決定を行うことになっているが、これはどうなるのか。

安部：もし仮に3月の理事会で承認をした予算が、5月の総会で否決された場合はどうなるのか。

羽田：もしそうなった場合は、国側との相談となると思われる。

津田：総会を3月に変更するという必要はないか。

羽田：それはないと思う。

長岡：予算の承認は理事会だけ行ってもかまわない。定款上は総会の決定が謳われているが、法律上は理事会が決定することになっているので、本来は定款にそこまで記載する必要はなかったといえる。

逆に定款に記載されている以上、総会で承認を受けないわけにはいかない。ただし、定款の変更は可能である。

10) 評議員会について

横須賀：今後、評議員会はどうなるのか。

長岡：日本女医会の意思決定機関は、あくまで理事会と総会のみである。評議員会は、法律上求められる機関ではなく、内部的に任意の機関として作るのであれば問題はないし、評議員会という名称が残ってもかまわない。

津田：支部の許諾については、今後とどのようなかたちにするか慎重に検討していきたい。

11) 事業内容の変更について

羽田：現在申請している事業の内容を変更する場合は、変更公布申請の必要が出てくる。したがって、毎年度事業を変えるということは避けたほうがよい。

何年も実施されない事業は、

削る方向でいくほうがよい。また、事業の内容は会員限定といったものは認められない。

津田：つまり、来年度には吉岡弥生賞などの規定についても、内容を訂正しておかなくてはならないということですね。

羽田：そうです。次回の募集からは、公益性のある方向でいかなくてはならない。

2. 社団法人日本女医会第16回ブック懇談会(佐賀)について

(横須賀理事)

- 1) 資料に基づき、当日(2/25)のスケジュールの確認を行った。
- 2) 会場の設営については、垂れ幕等は不要。ポスターを事務局から藤川理事の宿泊先に気付で送付し、当日掲示する。

3. 第57回(公益社団法人)日本女医会定時総会(岐阜)について

- 1) スケジュールを確認
5/20午後には役員選挙が行わ

れるため、時間調整が可能なランチョンセミナーを行う。ランチョンセミナーへの参加を希望しない人には、お弁当を用意し、そちらの経費は本部が支払う。

2) 講演会は公開講演会とする。製薬会社との共催も検討中。

3) 1/25発送予定の日本女医会誌209号に総会のアンケートのご案内を同封する。

4. 東日本大震災被災地への継続的支援について

奥田工業の無線機の購入については、次回理事会の審議事項とする。

5. 日本女医会入会のご案内に学生向け文言を加える件について(津田会長)

1) 入会案内パンフレットの「本会に協力、援助のあった医学生」という文言については限定的な印象があるため、今後は事務局でシールを貼り「本会に協力、

援助の意志のある医学生」に変更する。

2) 「日本女医会入会のお誘い」に学生向けの内容を盛り込んだものを広報部で検討作成、アメリカ女医会のパンフレットをもとにした学生向けの専用案内を事業部で作成し、2月の理事会で検討する。

3) HPからの入会申し込みフォームは、アンケート部分を除いた部分をアップする。アンケートについては、次回改めて提案する。

審議事項

1. 第6回日本禁煙学会学術総会協賛(4/7、4/8)と協賛金の金額については、次回理事会で審議する。
2. 第11回ミニウォーク&ランフォーブレストケア ピンクリボンウォーク2012(3/25)後援を承認
3. NHKテレビ小説「梅ちゃん先生」

AJINOMOTO®

高カロリー輸液用糖・電解質・アミノ酸液
ピーエヌツイン®
処方せん医薬品(注) ●薬価基準収載

高カロリー輸液用総合ビタミン剤
マルタミン®
処方せん医薬品(注) ●薬価基準収載

高カロリー輸液用微量元素製剤
エレメンミック®
処方せん医薬品(注) ●薬価基準収載

(注)注意—医師等の処方せんにより使用すること

★「効能又は効果」、「用法及び用量」、「禁忌を含む使用上の注意」等については、製品添付文書をご参照下さい。

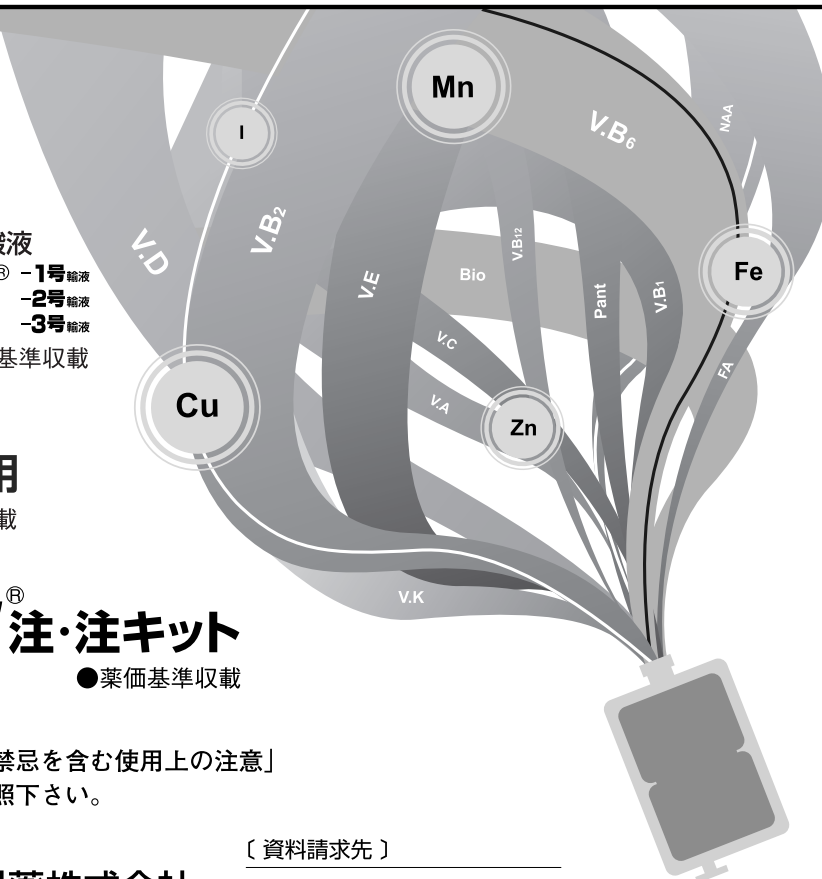


製造販売
味の素製薬株式会社
〒104-0042 東京都中央区入船二丁目1番1号

〔資料請求先〕

味の素製薬株式会社 ぐすり相談
☎0120-917-719

2010年4月作成
PTW/MUL/EMI-JB52-0410-SP



への協力チラシを日本女医会誌209号と同時に発送することを承認

4. 次年度の事業計画と予算について
今年度申請時に作成した事業計画と予算をそのまま使うこととした。

報告事項

＜庶務部報告＞ (小関理事)

- 1) 12月理事会を新宿京王プラザホテルで開催(12/18)
- 2) 各賞選考委員会の開催について2/18(土)
午後2時15分～ 学術助成
午後2時30分～ 吉岡弥生賞

＜会計部報告＞

12月分会計報告 (濱田理事)

＜事業部報告＞ (藤川理事)

- 1) MsACT学生ミーティングを12/24午後に日本女医会会議室で開催。東京女子医大から2名の参加があった。

＜広報部報告＞

- 1) 1/5に日本女医会誌209号編集会議を開催。209号は1/25発送予定 (対馬理事)
- 2) 12月のHP訪問者の報告。情報更新の報告 (横須賀理事)

＜学術部報告＞

ホームページ「新しい治療とトピックス」の論文

- ・「新しい糖尿病治療の夜明け—インクレチン関連薬の登場—」(三浦順之助先生)
- ・「ロタウイルスワクチン(ロタリックス・ロタテック)について」(大谷智子理事)を著者校正中。

＜委員会報告＞

子育て支援委員会 (小関理事)
「どうしよう子どもの救急」英語版は、ネイティブ・スピーカーがチェック中。その後は、元事務局員小林留美氏が取りまとめを行う。

＜NC報告＞(矢口理事)

12/17 安部理事がスカイプでの西太平洋地域のビジネスミーティングに参加。

各国の活動内容の報告が行われた。

- ・2013年7/31～8/3 韓国ソウルでの国際会議において、日本のチェアマンでビジネスミーティングを行うことを決定した。

＜その他＞

栃木支部報告 (山崎理事)

- ・日本女医会から栃木支部への義援金は、堀口あや先生が行う栃木県内の会員を対象にした「東日本大震災における女医および共に働く看護師の健康調査」アンケート、および研究に活用させて頂くことに決定

日時：平成24年2月18日(土)
午後3時

場所：社団法人日本女医会会議室

出席者：津田、古賀、松井、山本、秋葉、安部、大谷、小関、川村、澤口、諏訪、塚田、対馬、濱田、藤川、前田、宮本、宮崎、矢口、山崎、山崎、山田、横須賀、吉馴、中井、森川 (25名)

欠席者：高原 (1名)

- ・理事会に先立ち、各賞の選考を行った。
- ・1月議事録を承認

継続審議事項

- 1. 公益法人化に伴う変更点、および各事業の削減予算案等について (羽田氏)
・事業費を中心に予算を二割削減した案を3月理事会に諮る。
・規程集については、3月理事会前に案を羽田氏が作成し、各理事に配布する。各理事は、3月理事会までに内容を検討する。
会長より庶務部に対し、理事会参加のための交通費、また理事会の開催回数について検討の要請があった。
- 2. 社団法人日本女医会第16回プロ

ック懇談会(佐賀)について

(横須賀理事)

- ・パンフレットを修正の上承認
- ・当日のスケジュールを確認

- 3. 第57回公益社団法人日本女医会定時総会(岐阜)について

(宮崎理事)

- ・ランチョン・セミナー名称は、「日本女医会ランチョン・セミナー」とする。担当は日本女医会岐阜支部。
- ・公開講演会は、公益社団法人日本女医会総会との同時開催となるので、担当は日本女医会事務局とする。
- ・速記については、岐阜で手配する。評議員会の速記については次回の検討事項とする。

- 4. 東日本大震災被災地への継続的支援について (津田会長)

- ・奥田工業の無線機について、奥田ひろ子氏からの説明があった。

- 5. 日本女医会入会案内について

- ・入会案内パンフレット、「日本女医会入会のお誘い」は当面はシール等で修正をして使用し、公益法人移行後に新たなものを作成する。

＜承認＞(秋葉理事)

- ・入会案内学生専用版をHPにアップする。 ＜承認＞(藤川理事)

- 5. 第6回日本禁煙学会学術総会(4/7、4/8)について

緊急シンポジウム「震災と喫煙問題」に宮城県支部が、日本女医会からの東日本大震災支援金の一部を協賛金とする旨、古賀副会長から発表された。

審議事項

- 1. 高齢者長寿福祉関連事業を担当する新委員会を、事業部を担当部署として組織する。 ＜承認＞
- 2. 商標権を継続して登録する ＜承認＞
- 3. 地域医療奉仕活動に対する助成について
吉馴理事の説明に対し、松井

副会長より、この活動を平成24年度社会福祉振興助成事業として申請するよう提案があり、承認された。

4. 「今後の性教育フォーラム 最近の男子の傾向と男子へのアプローチ」5/13 名古屋市女性会館(主催:愛知県私学協会 性教育研究会、愛知・思春期研究会)への後援 <承認>
5. 社団法人日本女医会第1回提言論文募集の締め切りを3/15まで延期する。 <承認>(藤川理事)
6. NHK テレビドラマ『梅ちゃん先生』への協力について
各支部長に会長名で協力依頼の手紙を送付する。
<承認>(津田会長)

報告事項

- <庶務部報告> (宮崎理事)
- 1) 1月理事会を日本女医会会議室で開催(1/21)

<会計部報告>

1月分会計報告を承認 (塚田理事)

<渉外部報告> (澤口理事)

<広報部報告>

1) 1/25に日本女医会誌209号を発行。

2) 3/17までに、210号の原稿を各部長に依頼 (秋葉理事)

3) 公益法人移行後は外部に執筆を依頼する可能性があるため、執筆料などについて今後検討をする必要がある。 (秋葉理事)

4) 1月ホームページのアクセス数 (横須賀理事)

<学術部報告> (安部理事)

「新しい治療とトピックス」の進捗報告

<委員会報告>

- 1) 女性医師支援委員会 (澤口理事)
10/14(日)に第6回医学を志す女性のためのキャリア・シンポジウムを四谷・ルークホールで開催予定。

2) 子育て支援委員会

「どうしよう子どもの救急」英語版を作成中。2/18(土)理事会終了後に日本女医会会議室にて委員会を開催。 (小関理事)

<その他>

・『共同参画』(内閣府刊)2月号に掲載の記事掲載された旨報告があった。

・本日理事会前に行われた各賞審査の結果が発表された。

日本女医会吉岡弥生賞

(医学に貢献した部門)

小田泰子会員(宮城支部)

清島眞理子会員(岐阜支部)

足立知子会員(渋谷支部)

(社会に貢献した部門)

橋川ふさ子会員(愛知県支部)

学術研究助成

土屋恵会員(大阪第10支部)

細谷紀子会員(文京支部)

服部典子会員(世田谷支部)

東日本大震災義援金のご報告

続報

昨年3月11日に発生した東日本大震災に際し、会員の先生方に義援金をお願いし、多くの先生方からご送金をお預かり致しました。一部被災地支部へお見舞金とし、その後の用途につきましては、理事会にて検討を重ねておりますので、決定次第ご報告させていただきます。

尚、一部経費については、下記の通り3月末にて経理処理を致しましたので、ご報告させていただきます。

千葉・福島・仙台・ 八戸・宇都宮への 消耗品・郵便料金	¥251,960 ¥148,474
合計	¥400,434
お預かりした義援金合計	10,890,000
支払お見舞金	△4,000,000
経費	△400,434
残高	6,489,566



公益社団法人 日本女医会 第57回 定時総会のお知らせ

諸先生方にはご清祥にてご活躍のこととお慶び申し上げます。
 さて第57回日本女医会定時総会は、岐阜県において下記の予定で開催されます。
 本年は日本女医会の役員改選の年でございます。
 多くの方にご参加して頂きたく、皆様お誘い合わせの上、是非ご出席を賜りますようお願い申し上げます。
 尚、総会ご案内ハガキを4月上旬にお送りしております。御出欠のご返信を宜しくお願い申し上げます。

<会場> 岐阜都ホテル 〒502-0817 岐阜県岐阜市長良福光 2695-2 TEL: 058-295-3100

平成 24 年 5 月 19 日 (土)	平成 24 年 5 月 20 日 (日)
評議員会: 15:00 ~ 16:30 (仮称)	定時総会: 10:00 ~ 14:50 参加費 3,000 円 昼食: 11:30 ~ 13:00 選挙: 13:00 ~ 14:50

同日開催 講演会 (於 同ホテル 15:00 ~ 16:30)

<講師> 岐阜大学大学院医学系研究科・皮膚科病態学教授 清島眞理子先生

「難治性皮膚疾患の治療最前線—しなやかな治療戦略」

※時間と内容は多少変更する場合がございますので、ご了承くださいませ。

会員動静 (2012年3月31日現在・敬称略)

入会	氏名	卒業年度	支部	入会	氏名	卒業年度	支部	物故	氏名	卒業年度	支部
	大野 和子	昭 63	滋 賀		岡田嘉奈子	平 23	栃 木		宮崎 雅江	昭 16	埼 玉
	重村はるひ	昭 53	愛 知 県		福原 京子	昭 48	京 都		角田智恵子	昭 20	群 馬
	明石 定子		品 川		重 麻梨子	平 15	京 都		中村 春子	昭 30	愛 知 県
	上條美樹子	昭 59	愛 知 県		吉岡 玲子	昭 54	福 岡		赤川 セツ	昭 23	千 代 田
	康 美理	昭 58	東 女 医		佐藤 雅子	昭 56	京 都		市村みゆき	昭 49	栃 木
	齊藤眞樹子	昭 58	東 女 医		陣内 陽子	昭 47	福 岡		守屋 孝子	昭 18	千 代 田
	横田 茉莉	昭 59	東 女 医		陣内 裕子	平 11	福 岡		柿添 瓊子	昭 22	長 崎
	上野 美佳	学 生	岐 阜		陣内三佳子	平 15	福 岡				
	小林 結実	学 生	岐 阜		山門 希実	学 生	澁 谷 都				
	進藤百合子	昭 26	宮 城		立木 美香	平 12	京 都				
	中島たけ子	昭 22	福 岡								
	川口 彰子	平 19	愛 知 県	退会	37 名						
	浅野 直子	昭 60	京 都								
	高原万友香	学 生	岐 阜								



編集後記

とうとう日本女医会が「公益社団法人」として生まれかわりました。新しい船出です。移行までの会長・副会長・担当理事、事務局のご苦勞は、並々ならぬものでした。心より感謝したいと思います。

さて、新生女医会が出す日本女医会誌第1号といえるのが今号です。津田会長の、今後の日本女医会への希望、強い思いがひしひしと伝わってきます。これから日本女医会は、1. 次世代の女性医師育成を支援していく団体として、2. 女性医師が地域・社会・国家に貢献できるよう支援していく団体として、活動していくことと思います。その動きを、遅滞なくそして生き生きと、伝えられる女医会誌でありたいと思います。(対馬)

日本女医会誌

復刊第210号 2012年4月25日発行

編集人 対馬ルリ子

発行人 津田 喬子

制作 あづま堂印刷製

発行所 公益社団法人 日本女医会

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2-8-7

青山宮野ビル

TEL 03-3498-0571 FAX 03-3498-8769

http://www.jmwa.or.jp

e-mail: office@jmwa.or.jp